

KENHOKU PRIDE 2026

治して、支えて、街へ返す。

私たちが考える地域医療への最大の貢献は、

高度急性期医療を担うことだけではありません。

年間3000台を超える救急搬送に応え、命をつなぐこと。

そして、多職種が専門性を重ね合わせ、

回復期・生活支援まで切れ目なく支えること。

さらに、地域の先生方との二人主治医制を徹底し、

地域全体で患者さんを支える医療の輪をつなぐことで

住み慣れた街の、いつもの景色へ戻るまでを支える。

「救う」だけではなく、「支えて、返す」。

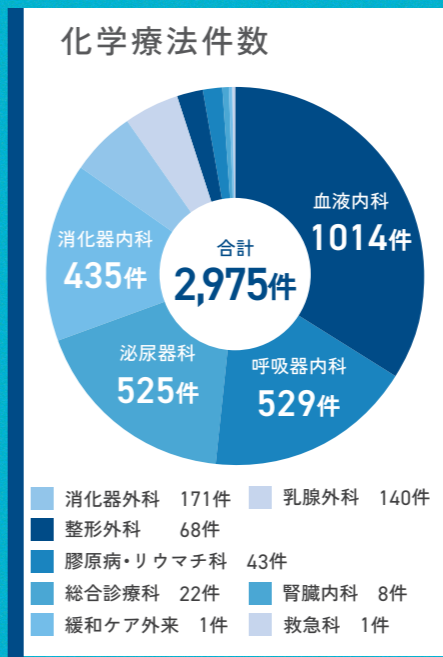
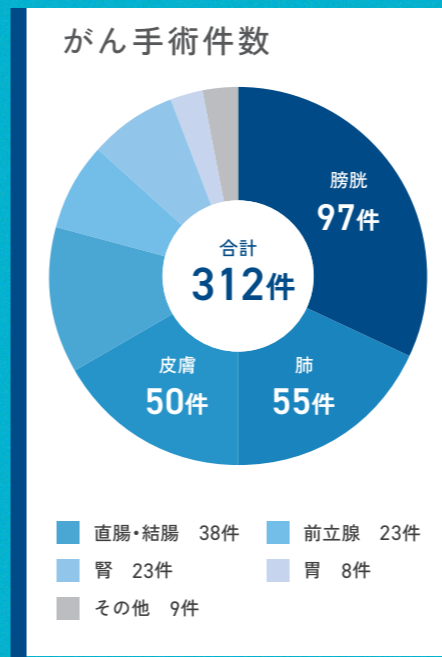
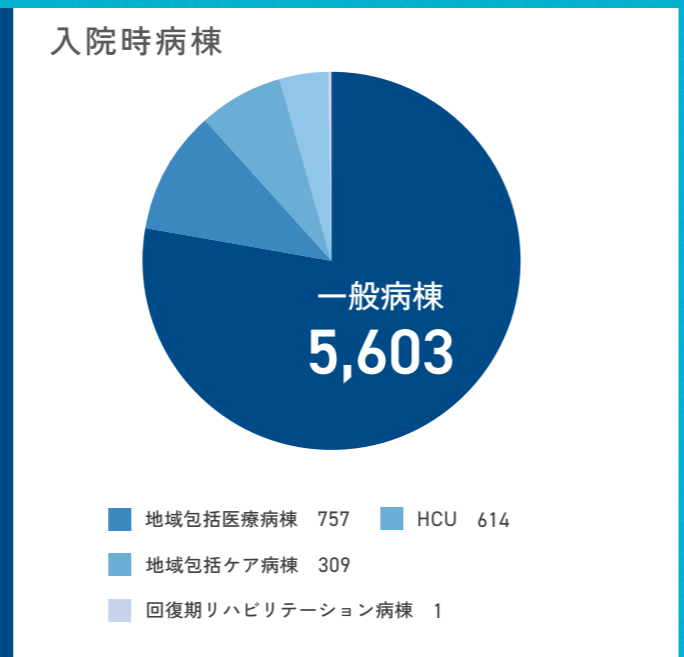
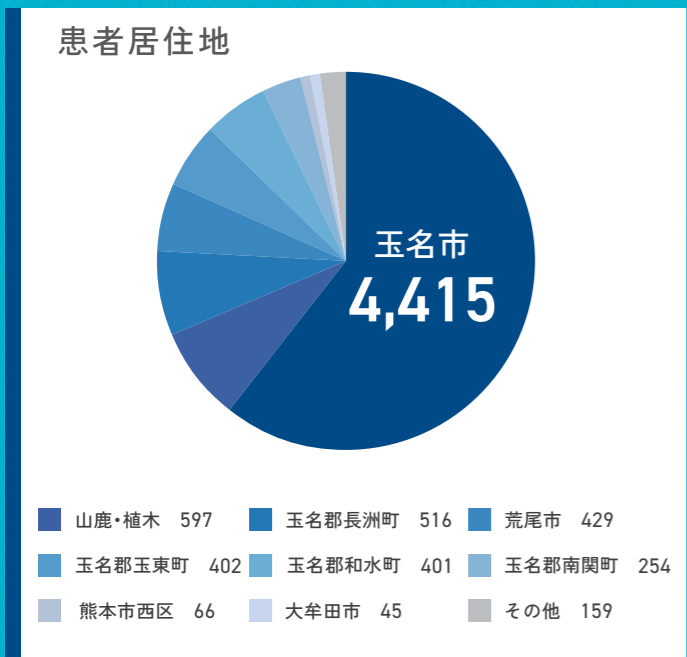
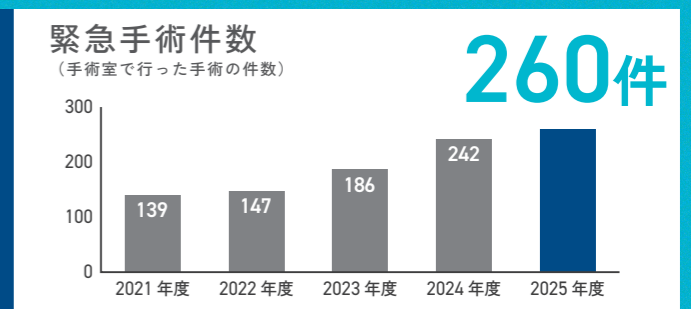
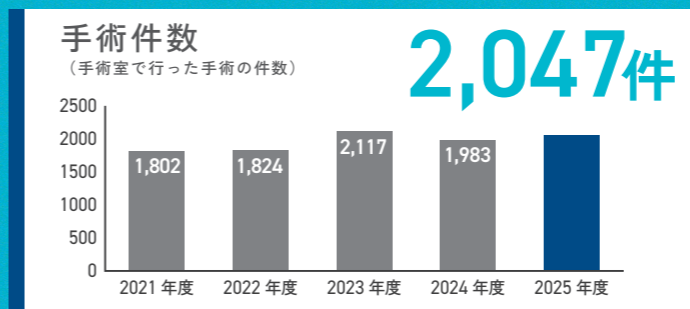
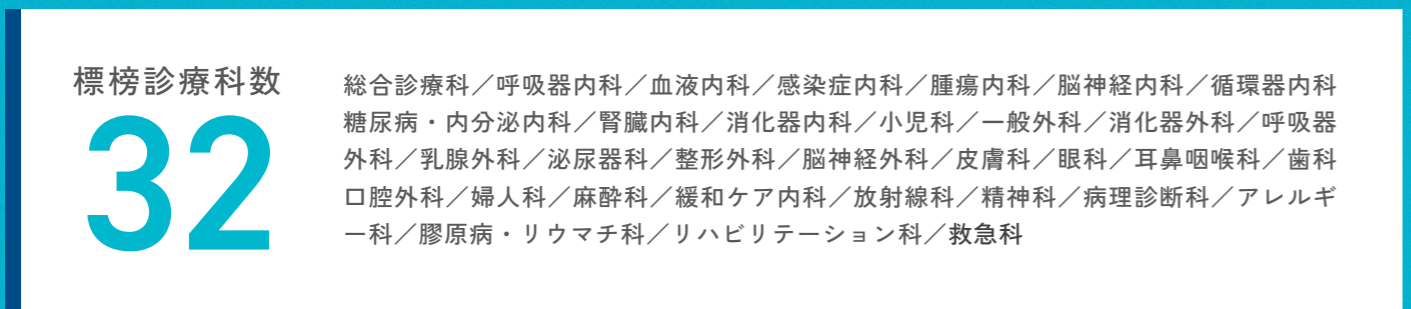
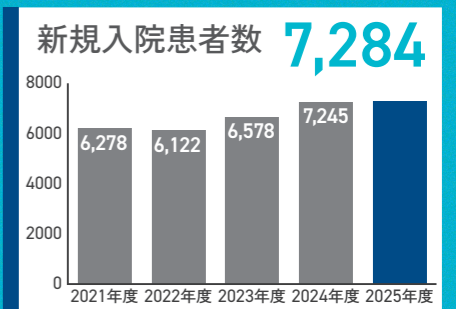
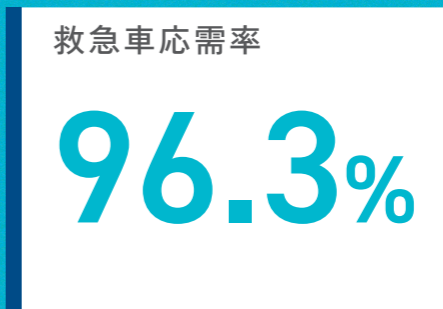
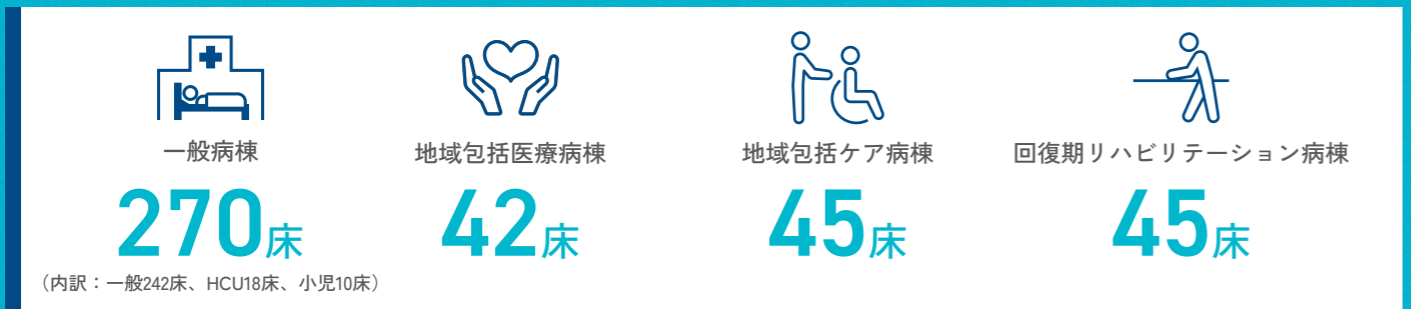
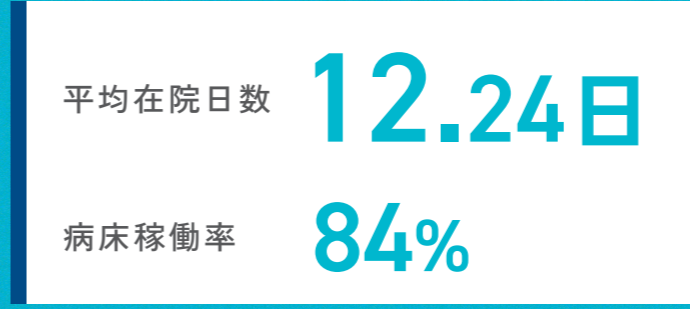
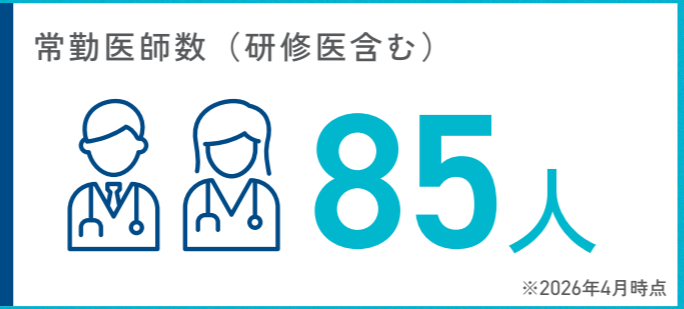
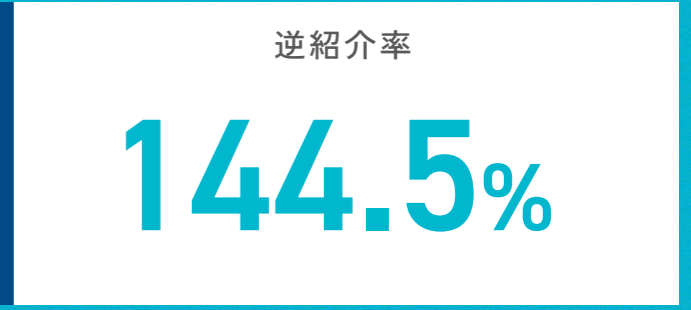
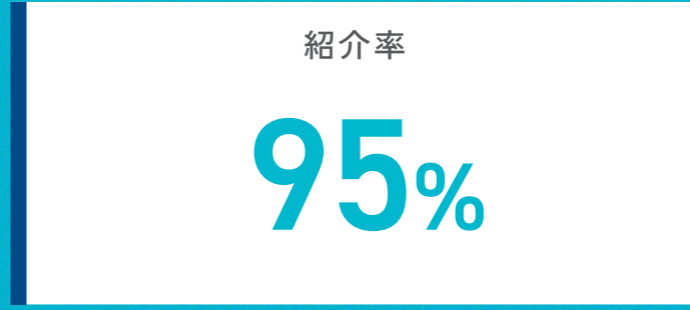
それが私たちの使命であり、県北の誇りです。

KUMAMOTO KEN HOKU HOSPITAL

TAMIYA

KENHOKU DATA 2025

数字で見るくまもと県北病院



公式Instagram
フォロワー数

1,994人

病気のこと
病院のリアルを発信中



玉名の流儀で、 超えていく。



一般社団法人 玉名郡市医師会

会長

佐々木 浩

対

談



地方独立行政法人 くまもと県北病院

病院長

田宮 貞宏

特別対談

人口減少、医師の高齢化、制度の壁、地域を取り巻く環境は、これまでにない厳しさを迎えている。医療だけでなく、福祉・介護・行政が一体となって考えなければ医療は守れない。この地域で医療を守るにはなにが必要か。玉名郡市医師会・佐々木会長と、くまもと県北病院・田宮病院長に、これからの地域医療についてお話しいただきました。

玉名の医療は、継続できるのか。

地域医療の現実

まず、現在の玉名地域の医療の現状について、どのように認識されていますか。

佐々木 人口減少と高齢化が同時に進む中で、医療機関の減少や医師の高齢化も避けられない状況です。特に開業医の後継者問題は深刻で、5年以内に地域の医療体制が大きく変わる可能性があります。

田宮 病院の立場から見ても、制度と現場の間にズレが出てきていると感じます。診療報酬制度も見通しが不透明な部分が多い中で、「住民の皆さんが求めているものは何か」を常に考え続ける必要があります。



率直にお伺いします。現在の制度は、地域の実情に合っていると感じられますか。

佐々木 正直に言えば、一律の基準では地域の実情を十分に反映できていない部分があります。玉名のような地域では、むしろ医療を弱めてしまう可能性もあると感じています。

田宮 制度に合わせるだけでなく、地域に必要な医療を“実績として示していく”ことが重要だと思っています。

「地域に必要な機能は変えない」

県北病院の覚悟

その中で、県北病院としての方向性についてお聞かせください。

田宮 まず明確にしているのは、点ではなく線で患者さんに関わることです。今後、早期に介入し、生活の場へ戻す力をさらに強化していきます。制度がどう変わっても、地域に必要な機能は変えない。「治して、支えて、街に返す」、これが「県北プライド」です。

地域の診療所との関係性についてはいかがですか。

田宮 当院が先生方の役割を代わるのではなく、それぞれの役割を尊重しながら、地域全体として医療を支えていく関係が重要だと考えています。その中で、結果として先生方が診療に専念できる環境づくりにもつなげていきたいと思っています。

佐々木 その考え方は非常に心強いですね。地域の医療機関としても、安心して患者さんを託せる存在だと感じています。

田宮 具体的には、救急への熱量を維持し「24時間365日のバックベッド(地域の診療所や施設からいつでも患者を受け入れる後方病床の確保)」、二人主治医制(かかりつけ医と病院医師が役割を分担しながら継続的に関わる仕組み)による切れ目のない医療、そしてICTを活用した医療・介護・福祉間の連携効率化を進めていきます。

統合とコロナ禍がつくった

「関係性」

これまでの連携の積み重ねについてはいかがでしょうか。

田宮 当院は医師会立病院の玉名地域保健医療センターと公立玉名中央病院が統合して生まれた経緯があり、連携は設立当初から前提にあります。特にコロナ禍では医師会との週2回のWEB会議を200回以上継続しました。この経験が、単なる情報共有を超えた信頼関係の土台になっています。

佐々木 単なる情報共有を超えて、お互いの考え方で理解できる関係になったと感じています。

田宮 また、紹介いただいた患者さんの中で入院に至らなかったケースについても振り返りを行っています。連携の精度を上げていくための重要な取り組みです。

佐々木 そうですね。結果として、地域全体の診療の質にもつながっていると感じています。

最大の課題は

「医師の承継」

今後の最大の課題についてはどうお考えですか。

佐々木 やはり医師の後継者問題です。今後、引退が一気に進む可能性があり、地域によっては医療そのものが維持できなくなる懸念もあります。

田宮 病院単体で支えるには限界があります。地域全体で人材を支える仕組みが必要で、例えば医療・介護・福祉の法人が連携して運営基盤を共有する「連携法人(地域医療連携推進法人)」のような形も選択肢の一つです。行政との協議も含めて、具体的な検討を進めていく必要があります。

佐々木医師会長ゆかりの

ラグビーボールを手に、

玉名の医療を

次につなぐ思いを語り合いました。



SASAKI HIROSHI
×
TAMIYA SADAHIRO

「善き医療者が育つ街」

という可能性

最後に、玉名の未来についてお聞かせください。

佐々木 この地域には、昔から医療を支えてきた歴史があります。困難な時代でも支え合ってきた土壌があるのは大きな強みです。

田宮 加えて、大学や行政との連携も進んでいます。教育と実践が結びつく環境が整いつつあると感じています。

佐々木 多職種が連携しながら学べる地域は多くありません。

田宮 「玉名で学びたい」と思ってもらえる地域にしていく。人材確保ではなく、人材育成。それが、この地域の医療を次世代につなぐ最大の戦略だと考えています。

育てることで、医療をつなぐ。

人工関節手術は、手術を成功させるだけでは完結しません。当院では、術後リハビリから在宅復帰、退院後のフォローまでを見据え、地域の医療機関とも連携。一人ひとりの「これまで通りの暮らし」を支える人工関節医療を目指しています。



最新技術による精密な手術

ポータブルナビゲーションシステムや低侵襲手術法(MIS)など、先進の医療技術を導入し、より安全で確実な手術を提供します。

総手術件数

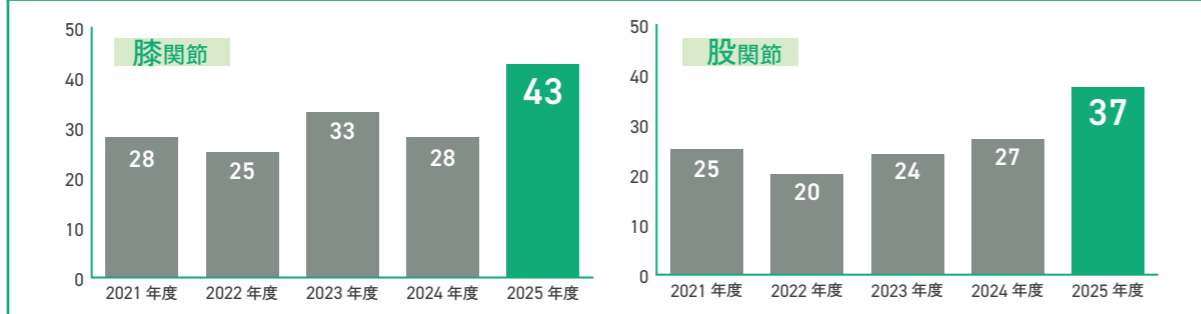
986

人工関節置換術

80

前年比 45%増

地域完結型の人工関節医療として、多くの症例に対応。



地域で完結する人工関節医療を目指して

整形外科外来での診察から手術、リハビリ、在宅復帰支援まで切れ目なく対応しています。退院後は地域のかかりつけ医と連携し、必要な術後確認を行いながら、住み慣れた地域での生活を支えます。



治療から生活までを支える専門職たち



手術のその先まで支える治療支援アプリ導入

01

デジタルツールを活用した患者支援

手術前後の注意点やリハビリに関する情報を配信しています。患者さんはスマートフォンから必要な時に内容を確認することができます。

02

ご自宅でも続けられるリハビリ支援

手術後の経過に合わせたリハビリ動画を配信しています。患者さんはご自宅でも動画を見ながら運動内容を確認することができます。

03

データを活用した治療支援

活動量や実施状況などを記録することができます。記録されたデータは、患者さん自身の振り返りや治療経過の把握に活用できます。

こんなときは「整形外科」へご相談ください

膝や股関節の痛みが続き
ADL低下がみられる

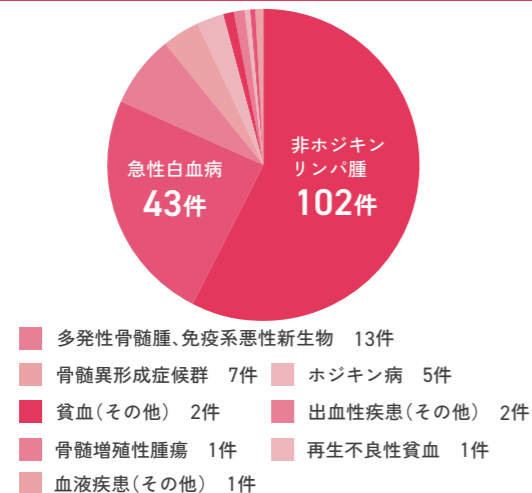
画像所見と症状の乖離があり
治療方針に悩む

手術適応を含め
専門的な評価を検討したい

血液疾患が疑われる患者さんや専門的な治療が必要な患者さんの紹介先として地域の先生方と連携し、その後の診療も見据えて対応します。

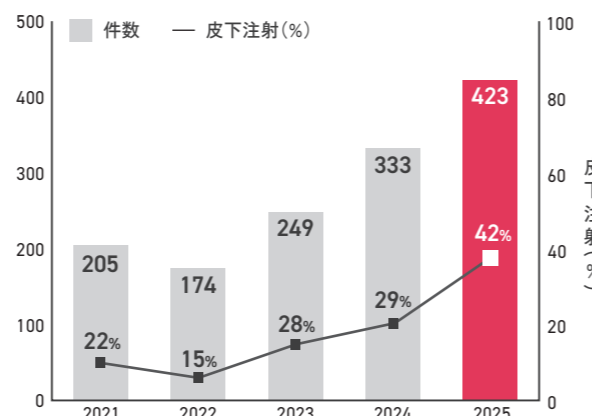


2025年度疾患構成



一般診療における血液疾患や造血器腫瘍の頻度は高くはありませんが、近年では高齢化に伴い、多発性骨髄腫、悪性リンパ腫や白血病は漸増しております。当院では病理部や検査部と密接に連携し、形態学的診断、造血器腫瘍細胞抗原検査や細胞・分子遺伝学的検査がそれぞれ補完し合い、正確な診断かつ特異的な治療選択肢をご提案しております。造血器腫瘍における最新の治療としてT細胞リダイレクト療法やエピジェネティック治療薬が上市されました。実際に当院でも白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の3大造血器腫瘍におきまして

がん化学療法レジメン実施件数の推移



T細胞リダイレクト療法を導入・実施しております。またエピジェネティック治療薬や分子標的薬の組み合わせにより80歳以上の高齢の患者さんにおきましても白血病の化学療法を比較的安全かつ効果的に行えるようになりました。非腫瘍性造血器疾患では特発性血小板減少性紫斑病(免疫性血小板減少症)や自己免疫性溶血性貧血などの一般的な指定難病から100万人あたり数人の後天性血友病や発作性夜間ヘモグロビン尿症等の稀少疾患の診断体制を整え、新規稀少疾患治療薬を導入・継続しております。

多職種でつくる、血液診療の現場

血液内科では、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW、リハビリスタッフなど多職種が連携し、患者さん一人ひとりを支えています。



薬剤師

薬学的介入により、安全な抗がん剤投与管理・設計・副作用軽減を実施し、治療継続を支援



病棟看護師

24時間全身管理及び精神的支援や苦痛の緩和に対する関わりを強化して対応



外来化学療法室看護師

安全な抗がん剤投与管理と副作用観察を担い、治療継続を支援



リハビリ

がん治療中の身体機能低下に対し、早期から介入し日常生活維持を支援



管理栄養士

食欲低下や治療副作用に応じ、継続的な栄養評価と食事支援を実施



MSW (医療ソーシャルワーカー)

療養継続に必要な社会資源調整や退院後の生活支援を担当

高度な治療を支える 無菌室(ISOクラス5)

当院には造血幹細胞移植にも利用される最高レベルの清浄度のISOクラス5の無菌室を2床備えております。極めて高度な感染防御が必要な急性白血病の寛解導入療法や最重症再生不良性貧血の治療を行っております。



Message

平素より血液内科診療にご理解賜り、誠にありがとうございます。私は2025年に当院に赴任し、県北・有明医療圏における血液診療の均質化に注力しております。常勤医師2名と非常勤医師1名(外来)の3名体制ですが、当院スタッフの協力により細胞治療(CAR-T療法や造血細胞移植)以外の化学療法はほとんど当院で導入・実施しております。細胞治療に関しては熊本大学病院に入院となりますが、細胞治療実施前後の入院・外来管理も当院で行っております。県北・有明地域をはじめ広くご紹介を賜り、昨年度の当科の化学療法レジメン実施件数は400件を超え、診療科別でも最多となっております。本邦のガイドラインのみならず、NCCNガイドラインやESMOガイドラインを含めたBest available therapyを基本として年齢や合併症、患者価値観に応じた治療や支持療法をご提案するよう心がけております。今後とも変わらぬご引き立てのほどよろしく願いいたします

日本内科学会認定内科医・指導医/日本内科学会総合内科専門医/日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本血液学会血液専門医・指導医/日本造血・免疫細胞療法学会認定医(旧日本造血細胞移植学会移植認定医)
日本輸血・細胞治療学会認定医

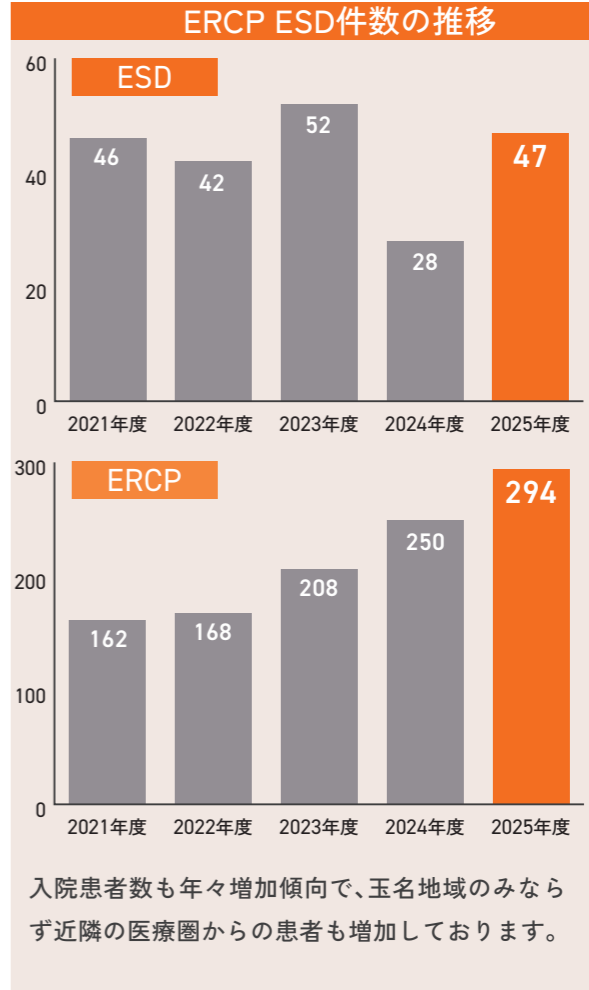
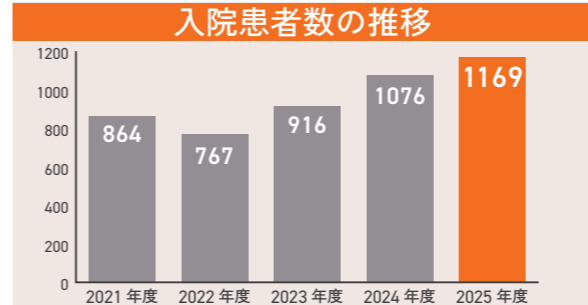
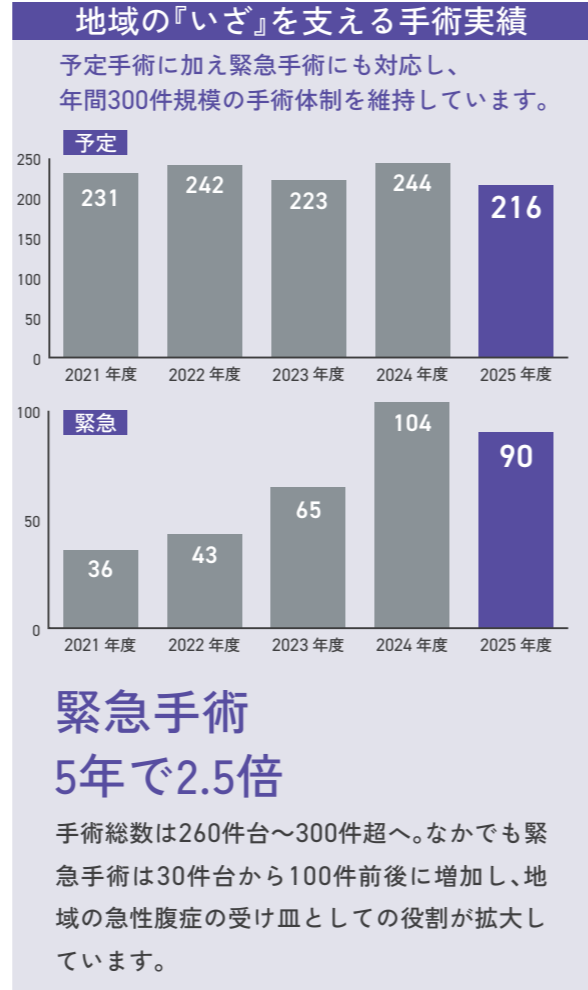
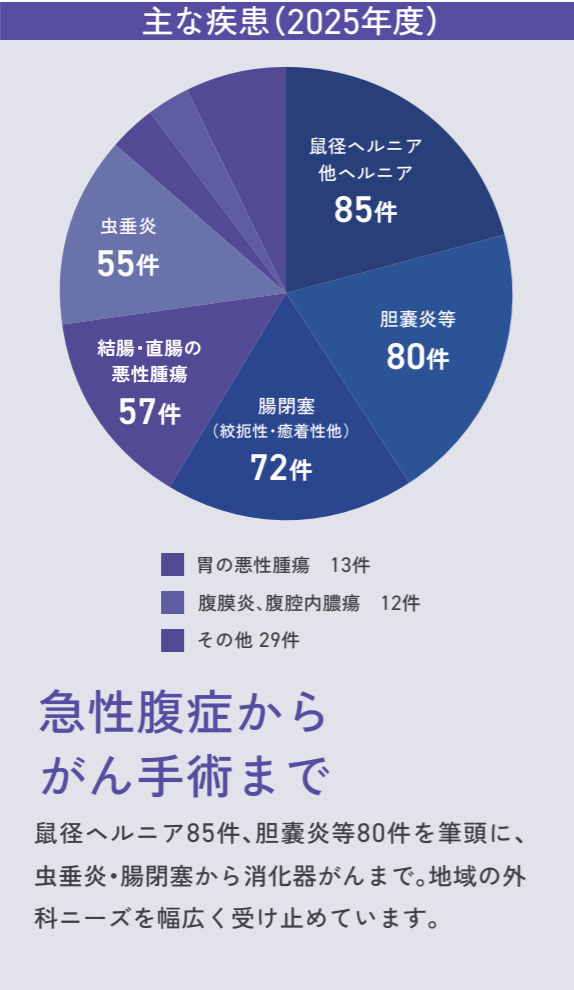


血液内科部長
平野 太一

内視鏡・CT・MRIによる精密検査は最短当日対応。急性胆のう炎・総胆管結石・消化管出血など緊急を要する疾患には、24時間対応し、内視鏡治療から抗がん剤・緩和ケアまで、内科・外科の連携で地域内完結を実現します。



夜間・休日を含めた緊急手術にも、24時間体制で対応。「外科的治療」つまり手術が必要と思われる消化器がん、虫垂炎、消化器穿孔、腸閉塞、ヘルニア(脱腸)、胆嚢炎などいつでもご紹介ください。内科と緊密に連携し、お腹の「いざ」という時を消化器外科医が支えます。



こんなときは「消化器外科」へご相談ください

- 手術が必要と思われる急で高度な腹痛があるとき
- 休日夜間を含め消化器救急を24時間体制で支援します

こんなときは「消化器内科」へご相談ください

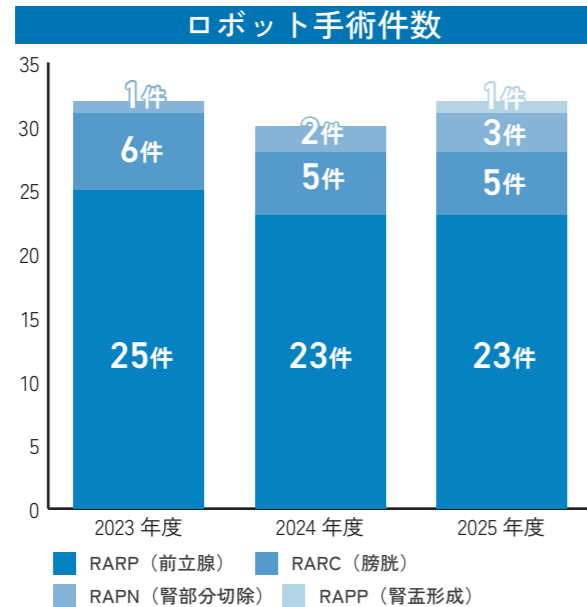
- 吐血、下血、腹痛などの救急疾患
- 消化器領域の悪性疾患を疑うとき

私たちは、患者さんが遠方まで通う負担を少しでも減らせるよう、地域で完結できる医療を大切にしています。県北唯一の泌尿器科常勤4名体制で、検査から一貫して対応。治療後は紹介元の先生方と連携しながら、継続した診療につなげています。



ロボット支援手術を活用し 身体への負担に配慮した 治療を行っています

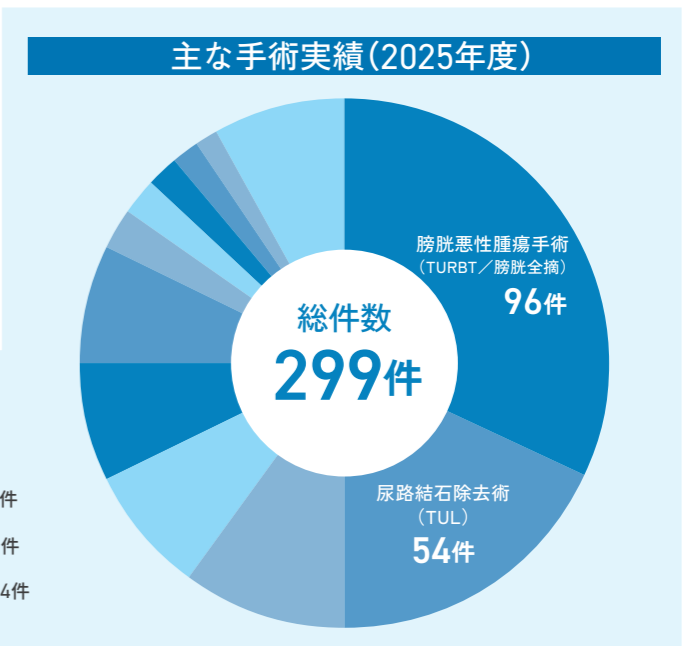
2023年に手術支援ロボット「ダビンチ」を導入。泌尿器科の身近な疾患のひとつである、前立腺がん・膀胱がん・腎がんに対するロボット支援手術を行っています。



常勤医4名で支える 県北の泌尿器科診療

県北では数少ない、常勤4名体制の泌尿器科です。外来から手術、術後フォローまで、それぞれの専門性を活かしながら診療を行っています。夜間や休日の緊急対応にも対応しています。

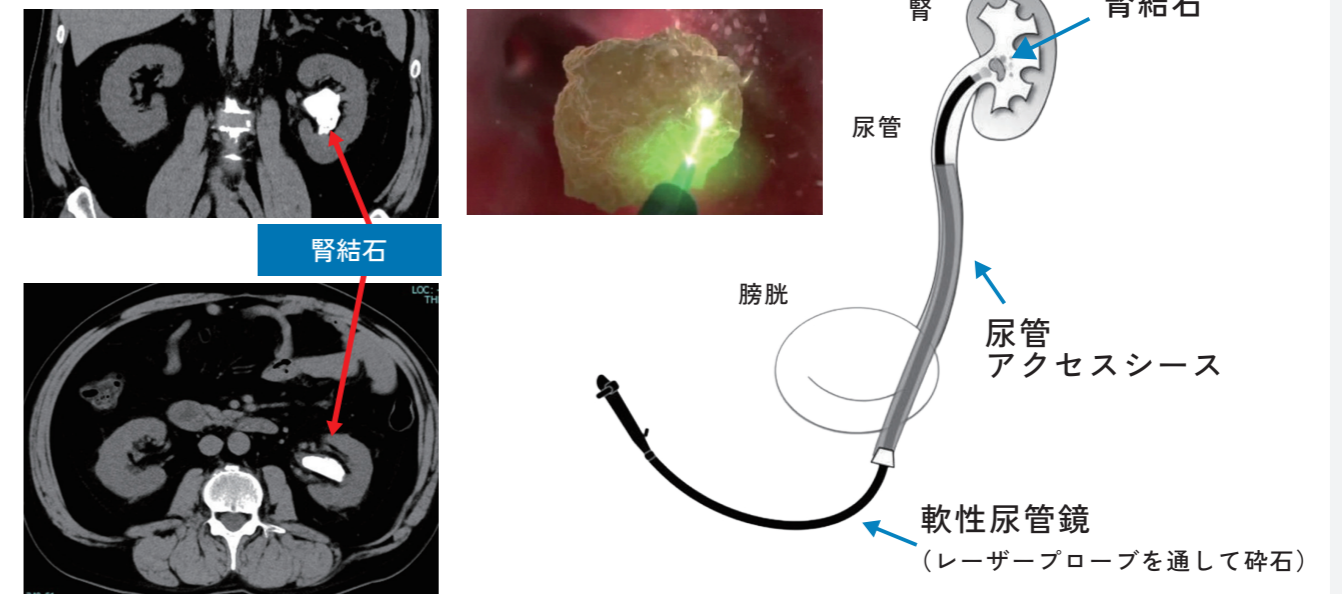
- 前立腺肥大症手術 (TURP・PUL・レジウム) 30件
- 前立腺悪性腫瘍手術 (RARP) 23件
- 腎(尿管)悪性腫瘍手術 (RAPN・LRN・LNU) 22件
- 尿道狭窄内視鏡手術 8件
- 経尿道的電気凝固術 5件
- 膀胱結石摘出術 21件
- 包茎手術 6件
- 陰嚢水腫手術 6件
- 精巣悪性腫瘍手術 4件
- その他 24件



内視鏡治療による、身体への負担に配慮した尿路結石治療

当院では、レーザーによる経尿道的内視鏡手術(TUL)を中心に尿路結石治療を行っています。地域の先生方と連携しながら、外来対応が難しい症例にも対応しています。また、結石の成分分析を行い、再発予防につなげています。

TUL:経尿道的(上部)尿路結石除去術



こんなときは「泌尿器科」へご相談ください

PSAが高値だった

小さい尿管結石が
なかなかでない

「これって泌尿器科？」
と思った時

診断がつかない、どこに紹介すればいいかわからない
 ——そんなときこそ、まずご相談を。
 総合診療科が診立てを行い、必要な医療へつなぎます。



救急専門医が加わり 受け入れ体制を強化

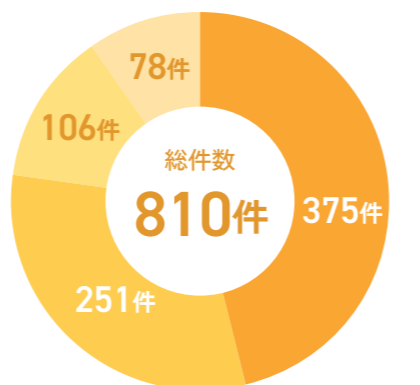
入院時の重症度に応じてハイケア・急性期一般・地域包括医療病棟・地域包括ケア病棟にて対応して、地域の医療需要として特に高齢者救急の受け皿の役割は重要であると考えており、当院において総合診療科はその中核を担っています。今年度からは常勤の救急専門医による診療が開始され、これまで以上に緊急入院の対応が重要になるものと考えます。



救急科部長
雨田 立憲

日本救急医学会救急科専門医／日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・認定指導医／日本中毒学会クリニカル・トキシコロジー認定医

入院時病棟(2025年)



急性期から回復期まで
幅広く対応可能

こんなときは「総合診療科」へご相談ください

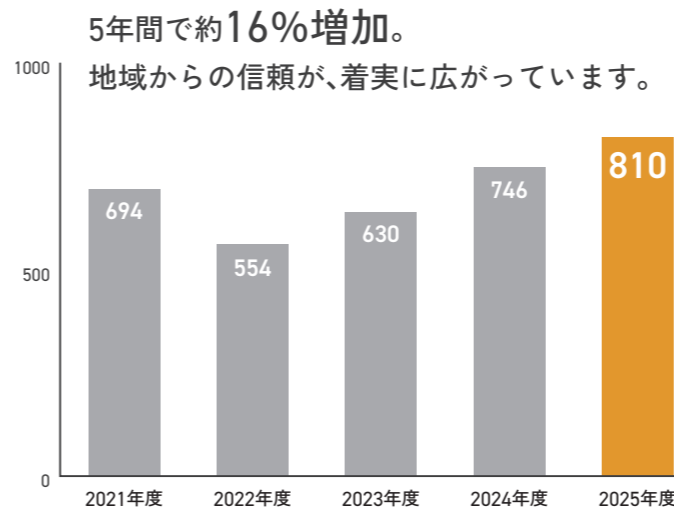
診断がつかず
精査が必要なとき

紹介先の診療科に
迷うとき

複数のプロブレムが
重なっているとき

幅広い症例を診る、地域医療の要

入院患者数の推移



主な疾患

- 敗血症(ショック含む)
- 誤嚥性肺炎
- 急性心不全
- 腎臓又は尿路の感染症
- 肺炎等
- 急性腎不全
- 全身性自己免疫疾患
- 脊椎感染
- 体温異常
- 急性薬物中毒

感染症などのコモンディジーズからまれな疾患まで領域別専門医の協力も得ながら、診療を実施しています。また、重症患者さんの臓器横断的治療も実施し、急性期治療にも積極的に取り組んでいます。

すべての入院患者を 多職種で診る

当院では「患者QOLの向上と経営への貢献」を目的とした多職種カンファレンスに力を入れています。カンファレンスの主体は、主な入院病棟の看護師が主催しており、多職種の専門性を活かしたカンファレンスは退院支援に非常に有用だと考えています。リハビリや栄養、服薬状況などを多職種で共有し、早期に課題を発見しながら、患者さんにとってより良い支援につなげています。さらに地域との情報共有を図ることで患者さんが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、多職種一丸となって取り組んでいます。



Message



総合診療科医長
中村 孝典

日頃より多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当科は地域の「よろず相談所」として、また「ジェネラルマインドを持った医師の育成の場」として以下の二点を軸に活動しております。第一にプロブレムを限定しない診療です。重症急性期患者、診断困難な症例や多疾患併存患者の管理、三次医療機関の後方支援、社会的問題への介入など様々な地域のニーズに応えてきたいと考えています。当院での治療後は地域の先生方との連携を保つことで患者さんのQOLの維持を目指します。第二に卒前・卒後教育への注力です。熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の教育拠点と

して、医学生や研修医、専攻医への臨床教育を実践しています。またその対象は総合診療科の志望者だけに限りません。私自身がこちらの地域で育てていただいたように、エビデンスに基づいた臨床能力とジェネラルマインドを併せ持った次世代の医師をこの玉名の地域で育成していきます。「困った時の県北総診」として、お気軽にご相談いただければ幸いです。当科はまだ歴史も浅く発展途上ではありますが、先生方の力を借りながら地域へ貢献できるよう頑張っていきたいと考えています。改めましてよろしくお願い申し上げます。

日本内科学会認定内科医／日本専門医機構総合診療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医／日本プライマリ・ケア連合学会新・家庭医療専門医

見えないリスクから、患者さんを守る。

安心して

紹介できる医療を

感染対策で支える

感染リスクがあるから受けられない、ではなく、感染リスクがあっても受けられる体制をつくる。当院の感染対策チーム(ICT)は、診療を制限するためではなく、“受ける医療”を支えるために機能しています。



Infection Control

感染対策チーム

感染管理認定看護師から

COVID-19の流行を経て、各医療機関や施設内における感染対策や物品の整備についての認識が高まったと思います。日々の業務の中で疑問や不安、葛藤を抱いていらっしゃるのではないのでしょうか。感染対策に関する相談対応、施設内の感染対策状況の確認や研修会などもお受けしておりますので、平時からの感染対策の構築、自施設に合った感染対策や問題決策に向けてご活用いただければ幸いです。

ICTとは？

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師などで構成される多職種チームです。院内感染の予防・監視・対策を担い、医療の質と安全を支えています。

院内での取り組み

- ・院内ラウンド(感染症患者や環境パトロール)
- ・抗菌薬適正使用の把握と推進、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)との連携
- ・アウトブレイクへの対処
- ・感染対策マニュアルの整備
- ・病院職員への教育、研修会の開催
- ・院外地域医療施設職員参加型の研修会開催(奇数月 第1木曜日 18:00~18:30)

感染環境ラウンド



地域へ

「断らない医療」を支える取り組み

近隣医療機関からの感染対策に関する相談対応

施設・在宅分野への助言・情報共有

研修会・講演会

当院の感染対策は、院内にとどまりません。感染対策のレベルを地域全体で引き上げることで、「紹介しやすい環境」と「受け入れやすい体制」の両立を目指しています。

主治医のそばに、もうひとつの力。くまもと県北病院のチーム医療。

感染対策チーム

院内感染や褥瘡は、入院中の患者さんの状態を大きく左右します。当院では感染対策チーム(ICT)と褥瘡対策チームが常時稼働し、予防・早期発見・対応を多職種で行っています。

褥瘡対策チーム

大切な

患者さんを

悪化させないために

褥瘡(床ずれ)は、患者さんの状態を大きく左右する重要な課題です。当院では褥瘡対策チームが介入し、早期発見と適切な対応により、重症化の予防に取り組んでいます。



Wound Care

褥瘡対策チーム

皮膚・排泄ケア認定看護師から

褥瘡は入院時のリスク評価と、それに対応した予防方法を取ることで発生を予防できます。多職種がそれぞれの専門性を発揮し、適切な処置やケアを提供いたします。ご自宅や施設へ戻られる際も、継続した褥瘡予防ケアを行えるよう、環境や医療資源の導入について、ご家族と検討を行います。褥瘡を作ることなく、住み慣れた環境で安心した生活を送ることが出来るよう、チームで取り組みます。

褥瘡回診



褥瘡対策チームとは

医師・看護師・皮膚排泄ケア認定看護師などが連携し、褥瘡の予防と治療に取り組んでいます。

- 医師 治療方針の決定
- 看護師 日常ケア・観察
- 認定看護師 専門的評価・指導
- リハビリ ポジショニング支援
- 栄養 創傷治癒を支える栄養管理

回診・体圧管理・栄養管理を組み合わせて、病棟全体で褥瘡を防ぐ仕組みをつくっています。

重症化させないための早期介入

小さな変化を見逃さないことが、重症化を防ぎます。

01

入院時からのリスク評価

02

定期的な皮膚状態の確認

03

体位変換除圧の徹底

04

創部の適切な処置

地域への取り組み

地域の医療施設との情報交換
カンファレンス
勉強会の開催(Zoom対応)
施設や事業所への出張研修・講演

治療を止めない、 支えるチカラ。

安心して相談できる

緩和ケアを

外来から

緩和ケアは、特別なものではなく、診療の延長線上にあるものです。当院では、緩和ケア外来を“入口”として、患者さん一人ひとりをチームで支える体制を整えています。



Palliative Care

緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師から

私たち緩和ケアチームの役割は、患者さんとご家族の「診療の延長線上」にある安心を与えることです。緩和ケアは最後を待っている場所ではなく、その人らしさを支え、自分らしく生きるための入口です。先生方が紹介のタイミングに迷われたときに、私たちの出番だと思っています。ぜひ、先生方のパートナーとして当チームをご活用ください。ご相談をお待ちしております。

まずは、緩和ケア外来へ
ご相談ください。

痛みや症状のコントロール
不安や生活上の困りごとへの対応
今後の療養場所の相談

診療日時(予約制)

火曜日・木曜日(偶数日) / 13:30~16:00



緩和ケア外来

外来を起点に、
多職種で支えます。



受診(診察)

医師が症状を評価し、
方針を決定。

併行ケア

診察の裏側で、看護師が療養生活の不安を聞き、薬剤師が服薬指導を行う。

連携

MSWが地域のケアマジャーと連絡を取り、患者さんのご自宅の環境を整える。

受診結果を速やかに
紹介元の先生へご報告

がん患者相談支援件数

2024年 393件 ▶ 2025年 494件

がん患者苦痛スクリーニング実施率

2024年 入院:81.2% ▶ 2025年 入院:96.9%
外来:93.2% 外来:97.4%

主治医のそばに、もうひとつの力。くまもと県北病院のチーム医療。

緩和ケアチーム

栄養状態の悪化や痛み・不安は、治療の継続を妨げる要因になります。当院では栄養サポートチーム(NST)と緩和ケアチームが、入院中の患者さんの治療と回復を支えています。

NST

「食べる」を支え

回復の力を

つくる

栄養管理は、治療を続けるための基盤です。当院NSTは医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・言語聴覚士などが連携し、患者さん一人ひとりに応じた栄養介入で治療継続と回復を支えています。



Nutrition Support

栄養サポートチーム

摂食嚥下障害看護認定看護師から

食べることは、生命を維持するだけでなく、患者さんにとって喜びであり、「幸せ」と感じられるものです。だからこそ、食べられなくなることは心身に大きく影響します。私たちNSTは、患者さんの嚥む力、飲み込む力を評価し、安全においしく食べることを多職種で支えています。紹介いただいた患者さんの栄養面は、私たちが責任をもって支援いたします。

治療を
止めないための
栄養介入

- ・食事摂取量低下への早期対応
- ・経口・経管静脈栄養の最適化
- ・病態に応じた栄養設計
- ・体力低下の予防



NST検討会

ミールラウンド

医師 歯科医師 摂食・嚥下障害看護認定看護師
管理栄養士 薬剤師 言語聴覚士

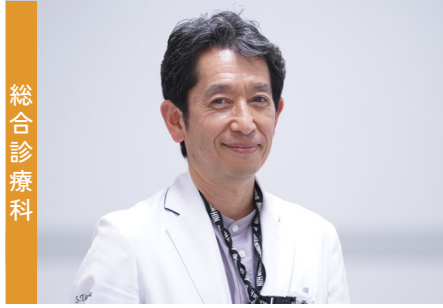
治療を支える力は、栄養から。



口腔から嚥下まで、
専門チームが支える。

歯科医師を含めて口腔機能や嚥下機能まで多面的に評価し、安全な食事摂取を多職種で支えています。

総合診療科



病院長
田宮 貞宏 TAMIYA SADAHIRO
熊本大学 1991年(平成3年)卒
・医学博士
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・
教育施設指導医
・日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
・日本リウマチ学会リウマチ専門医



部長
佐藤 彰洋 SATO AKIHIRO
久留米大学 1996年(平成8年)卒



医長
中村 孝典 NAKAMURA TAKANORI
久留米大学 2014年(平成26年)卒
・日本内科学会認定内科医
・日本専門医機構総合診療専門医
・日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・
ケア認定医
・日本プライマリ・ケア連合学会新・家庭医療
専門医

呼吸器内科



副院長
溝部 孝則 MIZOBE TAKANORI
熊本大学 1986年(昭和61年)卒
・医学博士
・日本呼吸器学会呼吸器専門医
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医



診療部長 兼 部長
一安 秀範 ICHIYASU HIDENORI
熊本大学 1992年(平成4年)卒
・医学博士
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
・日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
・日本結核非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌
症認定医
・ICD(インフェクションコントロール・ドクター)



主任部長
津守 香里 TSUMORI KAORI
熊本大学 1994年(平成6年)卒
・医学博士
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
・日本呼吸器学会呼吸器指導医・呼吸器専門医
・日本アレルギー学会アレルギー専門医
・ICD(インフェクションコントロール・ドクター)



寄附講座講師
久保崎 順子 KUBOSAKI JUNKO
熊本大学 2016年(平成28年)卒
・日本専門医機構総合診療専門医
・日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医



木下 聡 KINOSHITA SATOSHI
熊本大学 2017年(平成29年)卒
・日本精神神経学会精神科専門医
・厚生労働省精神保健指定医



國行 浩平 KUNIYUKI KOHEI
佐賀大学 2023年(令和5年)卒



病院長補佐 兼 部長
池田 智弘 IKEDA TOMOHIRO
熊本大学 2000年(平成12年)卒
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・
教育施設指導医
・日本呼吸器学会呼吸器専門医
・熊本大学医学部医学科臨床教授



佐藤 美菜子 SATO MINAKO
熊本大学 2010年(平成22年)卒
・日本内科学会認定内科医



福嶋 一晃 FUKUSHIMA KAZUAKI
熊本大学 2012年(平成24年)卒
・日本内科学会認定内科医
・日本呼吸器学会呼吸器専門医



伊藤 雄 ITO YU
宮崎大学 2024年(令和6年)卒



森嶋 純平 MORISHIMA JUNPEI
熊本大学 2024年(令和6年)卒

非常勤
松井 邦彦 MATSUI KUNIHICO
宮崎医科大学 1989年(平成1年)卒

非常勤
大里 元美 OSATO MOTOMI
大分医科大学 1990年(平成2年)卒

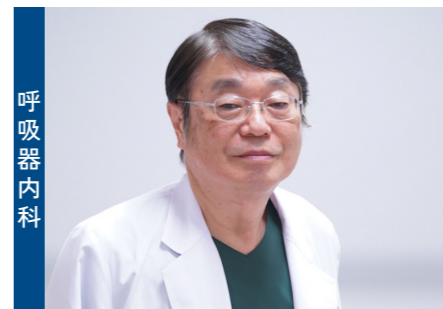
非常勤
小山 耕太 OYAMA KOTA
佐賀医科大学 2004年(平成16年)卒

非常勤
浦田 真吾 URATA SHINGO
九州大学 2004年(平成16年)卒

非常勤
武末 真希子 TAKEMATSU MAKIKO
熊本大学 2014年(平成26年)卒



秋原 健人 AKIHARA KENTO
熊本大学 2020年(令和2年)卒



牛島 正人 USIJIMA MASATO
熊本大学 1979年(昭和54年)卒
・日本内科学会認定内科医
・日本呼吸器学会呼吸器専門医・呼吸器指導医
・ICD(インフェクションコントロール・ドクター)

血液内科

腫瘍内科

脳神経内科

循環器内科



血液内科

部長
平野 太一 HIRANO TAICHI
 熊本大学 2010年(平成22年)卒
 ・日本内科学会認定内科医・指導医
 ・日本内科学会総合内科専門医
 ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 ・日本血液学会血液専門医・指導医
 ・日本造血・免疫細胞療法学会認定医(旧日本造血細胞移植学会 移植認定医)
 ・日本輸血・細胞治療学会認定医



血液内科

医長
今金 大輔 IMAKANE DAISUKE
 熊本大学 2014年(平成26年)卒
 ・熊本大学医学部附属病院中心静脈カテーテル施工認定医



血液内科

非常勤
西村 直 NISHIMURA NAO
 熊本大学 2009年(平成21年)卒

糖尿病・内分泌内科

腎臓内科



糖尿病・内分泌内科

副院長 兼 部長
松田 浩史 MATSUDA HIROFUMI
 熊本大学 1991年(平成3年)卒
 ・医学博士
 ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・教育施設指導医
 ・日本糖尿病学会糖尿病専門医・指導医
 ・日本循環器学会認定循環器専門医
 ・日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医
 ・ICD(インフェクションコントロール ドクター)
 ・日本救急医療ICLSディレクター



糖尿病・内分泌内科

二ノ村 聖 NINOMURA SATOSHI
 久留米大学 2012年(平成24年)卒



糖尿病・内分泌内科

非常勤
窪田 直人 KUBOTA NAOTO
 信州大学 1994年(平成6年)卒

非常勤
梶原 伸宏 KAJIHARA NOBUHIRO
 熊本大学 2009年(平成21年)卒



腫瘍内科

部長
牛島 淳 USHIJIMA SUNAO
 熊本大学 1988年(昭和63年)卒
 ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 ・日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医
 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・気管支鏡指導医
 ・日本がん治療認定医機構認定医



脳神経内科

部長
山口 安広 YAMAGUCHI YASUHIRO
 高知医科大学 1990年(平成2年)卒
 ・日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
 ・日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
 ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医



脳神経内科

非常勤
井村 真男 IMURA MASAO
 熊本大学 2021年(令和3年)卒



腎臓内科

部長
関 健博 KO TAKEHIRO
 佐賀医科大学 2001年(平成13年)卒
 ・医学博士
 ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・教育施設指導医
 ・日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
 ・日本透析医学会専門医



腎臓内科

非常勤
神吉 智子 KANKI TOMOKO
 奈良県立医科大学 2010年(平成22年)卒



腎臓内科

非常勤
松永 英士 MATSUNAGA EIJI
 長崎大学 2014年(平成26年)卒



循環器内科

部長
松川 将三 MATSUKAWA MASAKAZU
 山梨医科大学 2000年(平成12年)卒
 ・医学博士
 ・日本内科学会総合内科専門医
 ・日本循環器学会循環器専門医
 ・日本心血管インターベンション治療学会認定医



循環器内科

医長
名幸 久仁 NAKO HISATO
 熊本大学 2002年(平成14年)卒
 ・日本循環器学会循環器専門医
 ・日本禁煙学会禁煙認定専門指導医



循環器内科

医長
時津 孝典 TOKITSU TAKANORI
 熊本大学 2008年(平成20年)卒
 ・医学博士
 ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 ・日本循環器学会循環器専門医



腎臓内科

非常勤
平野 貴博 HIRANO TAKAHIRO
 熊本大学 2018年(平成30年)卒



腎臓内科

非常勤
坂本 萌 SAKAMOTO MOE
 熊本大学 2024年(令和6年)卒

非常勤
枇杷 剛 BIWA TAKESHI
 大分医科大学 1993年(平成5年)卒



消化器内科
病院長補佐 兼 消化器センター長
福林 光太郎 FUKUBAYASHI KOTARO
熊本大学 2000年(平成12年)卒
・医学博士
・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・
教育施設指導医
・日本肝臓学会肝臓専門医・指導医
・日本消化器病学会消化器病専門医・指導医



消化器内科
医長
池邊 賢一 IKEBE KENICHI
熊本大学 2010年(平成22年)卒
・日本内科学会認定内科医
・日本消化器病学会消化器病専門医
・日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医



消化器内科
荒川 大輔 ARAKAWA DAISUKE
徳島大学 2018年(平成30年)卒



小児科
永野 遥希 NAGANO HARUKI
熊本大学 2022年(令和4年)卒



小児科
非常勤
師井 裕記朗 MOROI YUKIO
川崎医科大学 2012年(平成24年)卒



小児科
非常勤
緒方 美佳 OGATA MIKA
熊本大学 1997年(平成9年)卒



消化器内科
何 逸美 KA ITSUMI
佐賀大学 2021年(令和3年)卒



消化器内科
嶋永 翔太 SHIMANAGA SHOTA
熊本大学 2021年(令和3年)卒



消化器内科
清水 優斗 SHIMIZU YUTO
熊本大学 2022年(令和4年)卒



消化器外科
診療部長 兼 部長
赤星 慎一 AKAHOSHI SHINICHI
熊本大学 2000年(平成12年)卒
・医学博士
・日本外科学会認定医・外科専門医・指導医
・日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
・日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医
・日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
・日本消化管学会胃腸科認定医・胃腸科専門医・胃腸科指導医
・日本肝臓学会肝臓専門医・指導医
・日本腹部救急医学会腹部救急認定医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医



消化器外科
医長
佐藤 伸隆 SATO NOBUTAKA
福岡大学 2003年(平成15年)卒
・医学博士
・日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
・日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
・日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医
・日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本外科学会外科専門医・指導医
・日本緩和医療学会緩和医療認定医



消化器外科
坂本 悠樹 SAKAMOTO YUKI
大分大学 2012年(平成24年)卒
・医学博士
・日本外科学会外科専門医
・日本消化器外科学会消化器外科専門医
・日本消化器病学会消化器病専門医
・緩和医療認定医
・日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医



小児科
部長
宮城 俊彦 MIYAGI TOSHIHIKO
熊本大学 1993年(平成5年)卒
・日本小児科学会小児科専門医



小児科
友枝 李果 TOMOEDA RIKA
熊本大学 2018年(平成30年)卒
・日本小児科学会小児科専門医



小児科
村上 考利 MURAKAMI TAKATOSHI
熊本大学 2022年(令和4年)卒



消化器外科
大村 亮太 OMURA RYOTA
熊本大学 2022年(令和4年)卒



呼吸器外科
部長
大場 康臣 OBA YASUOMI
佐賀医科大学 2003年(平成15年)卒
・日本外科学会外科専門医
・日本呼吸器外科学会認定登録医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医



乳腺外科
非常勤
後藤 理沙 GOTO RISA
熊本大学 2009年(平成21年)卒

泌尿器科

脳神経外科

眼科

皮膚科

整形外科



泌尿器科
部長
山口 隆大 YAMAGUCHI TAKAHIRO
熊本大学 2001年(平成13年)卒
・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定
・日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器ロボット支援手術プロクター認定(前立腺)



泌尿器科
医長
有働 和馬 UDO KAZUMA
佐賀大学 2002年(平成14年)卒
・医学博士
・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
・日本内視鏡外科学会泌尿器内視鏡技術認定
・日本泌尿器科学会 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器ロボット支援手術プロクター認定医



泌尿器科
東 俊之介 HIGASHI SHUNNOSUKE
大分大学 2018年(平成30年)卒
・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医



整形外科
病院長補佐 兼 部長
安岡 寛理 YASUOKA HIROMICHI
宮崎医科大学 1999年(平成11年)卒
・日本手外科学会手外科専門医・指導医・代議員
・日本整形外科学会整形外科専門医
・熊本県災害医療コーディネーター
・日本DMAT隊員・統括DMAT
・CBRNEテロ対策責任者(一級)



整形外科
人工関節センター長 兼 医長
中原 潤之輔 NAKAHARA JUNNOSUKE
熊本大学 2002年(平成14年)卒
・日本整形外科学会整形外科専門医
・日本整形外科学会認定リウマチ医
・日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
・日本整形外科学会認定スポーツ医
・日本DMAT隊員



整形外科
浦田 泰弘 URATA YASUHIRO
久留米大学 2012年(平成24年)卒
・日本整形外科学会整形外科専門医
・日本手外科学会手外科専門医
・日本整形外科学会認定リウマチ医
・日本整形外科学会認定スポーツ医



泌尿器科
田中 聡 TANAKA SATOSHI
熊本大学 2021年(令和3年)卒



脳神経外科
非常勤
高田 明 TAKADA AKIRA
熊本大学 1980年(昭和55年)卒



眼科
山下 俊一 YAMASHITA SHUNICHI
熊本大学 2018年(平成30年)卒



整形外科
片山 修浩 KATAYAMA NOBUHIRO
熊本大学 2013年(平成25年)卒
・日本整形外科学会整形外科専門医
・日本DMAT隊員



整形外科
笹岡 眞光 SASAOKA MASAMITSU
久留米大学 2018年(平成30年)卒
・日本整形外科学会整形外科専門医



整形外科
井手 淳之介 IDE JUNNOSUKE
熊本大学 2019年(平成31年)卒
・日本整形外科学会整形外科専門医



皮膚科
医長
大沼 毅紘 ONUMA TAKEHIRO
山梨医科大学 2008年(平成20年)卒
・日本皮膚科学会皮膚科専門医



皮膚科
ハ斯塔 HA SUTA
熊本大学大学院 2020年(令和2年)卒
・医学博士



皮膚科
非常勤
栗山 春香 AKIYAMA HARUKA
熊本大学 2013年(平成25年)卒



整形外科
赤穂 拓海 AKAHO TAKUMI
鹿児島大学 2023年(令和5年)卒

歯科口腔外科

婦人科

麻酔科

放射線科

病理診断科

救急科

膠原病・リウマチ科

健康管理センター



部長
福間 大喜 FUKUMA DAIKI
昭和大学 2003年(平成15年)卒
・医学博士
・日本口腔外科学会口腔外科専門医



部長
大林 越士 OBAYASHI TAKESHI
神奈川歯科大学 2022年(令和4年)卒



非常勤
柴田 三郎 SHIBATA SABURO
熊本大学 1979年(昭和54年)卒



部長
坂下 直実 SAKASHITA NAOMI
熊本大学 1989年(平成1年)卒
・医学博士
・日本病理学会病理専門医
・日本病理学会病理専門医研修指導医
・日本臨床細胞学会細胞診専門医
・死体解剖資格
・熊本大学臨床教授
・日本病理学会認定病理医



部長
雨田 立憲 AMEDA TATSUNORI
宮崎大学 1989年(平成1年)卒
・日本救急医学会救急科専門医
・日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・認定指導医
・日本中毒学会クリニカル・トキシコロジスト認定医



非常勤
今田 千晴 IMADA CHIHARU
大分大学 2007年(平成19年)卒



部長
岩切 重憲 IWAKIRI SHIGENORI
福岡大学 1997年(平成9年)卒
・日本専門医機構麻酔科専門医
・日本麻酔科学会麻酔科認定医
・日本DMAT隊員



医長
上原 友輝 UEHARA TOMOKI
久留米大学 2014年(平成26年)卒
・日本麻酔科学会麻酔科認定医・専門医



非常勤
浦島 ゆかり URASHIMA YUKARI
長崎大学 1999年(平成11年)卒



健康管理センター長
佐藤 龍一郎 SATO RYUICHIRO
熊本大学 1988年(昭和63年)卒
・日本医学放射線学会放射線診断専門医
・日本人間ドック・予防医療学会認定医
・日本消化器がん検診学会認定医(胃)
・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影医師
・熊本県がん検診従事者認定協議会肺がん一次検診総合判定医師
・乳がん検診従事医師
・日本医師会認定産業医



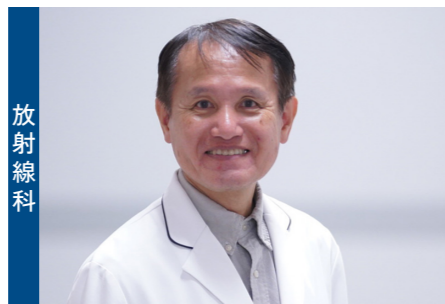
健康管理センター次長
和田 孝浩 WADA YOSHIHIRO
熊本大学 1990年(平成2年)卒
・医学博士
・産業医
・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
・日本人間ドック学会人間ドック認定医



健康管理センター次長
山口 勉 YAMAGUCHI TSUTOMU
防衛医科大学校 1991年(平成3年)卒
・日本内科学会認定内科医
・日本内科学会総合内科専門医
・日本消化器病学会専門医
・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医



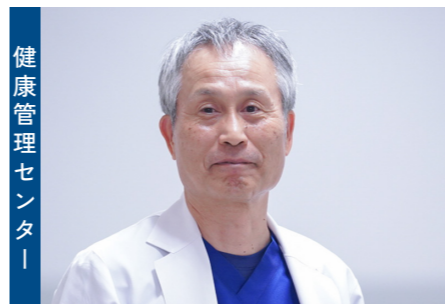
地方独立行政法人くまもと県北病院 理事長
山下 康行 YAMASHITA YASUYUKI
鹿児島大学 1981年(昭和56年)卒
・医学博士
・日本医学放射線学会放射線診断専門医



部長
浪本 智弘 NAMIMOTO TOMOHIRO
香川大学 1992年(平成4年)卒
・医学博士
・日本医学放射線学会放射線診断専門医
・日本腹部放射線学会評議員



部長
高岡 宏子 TAKAOKA HIROKO
熊本大学 2004年(平成16年)卒
・日本医学放射線学会放射線科専門医・放射線診断専門医・研修指導医



健康管理センター 部長
細瀧 喜代志 HOSOTAKI KIYOSHI
熊本大学 1990年(平成2年)卒
・日本外科学会外科専門医



健康管理センター
矢野 恵補 YANO KEISUKE
熊本大学 1975年(昭和50年)卒
・日本人間ドック・予防医療学会認定医
・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影医師
・熊本県がん検診従事者認定協議会肺がん一次検診総合判定医師
・乳がん検診従事医師
・産業医学基本講座修了産業医



非常勤
吉里 直子 YOSHIKATO NAOKO
高知医科大学 1997年(平成9年)卒

研修医



基幹型研修医1年次
有田 拓夢 ARITA HIROMU
熊本大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医1年次
池田 耕太郎 IKEDA KOTARO
久留米大学 2025年(令和7年)卒



基幹型研修医1年次
岩永 光 IWANAGA HIKARU
熊本大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医2年次
一ノ口 聖良 ICHINOKUCHI SEIRA
熊本大学 2025年(令和7年)卒



基幹型研修医2年次
小玉 悠渡 KODAMA HARUTO
宮崎大学 2025年(令和7年)卒



基幹型研修医2年次
中川 拓海 NAKAGAWA TAKUMI
山口大学 2024年(令和6年)卒



基幹型研修医1年次
檜原 秀貴 KASHIHARA SHUKI
九州大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医1年次
園田 大悟 SONODA DAIGO
熊本大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医1年次
福田 真子 FUKUDA MAKO
熊本大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医2年次
奈良 博史 NARA HIROSHI
熊本大学 2024年(令和6年)卒



基幹型研修医2年次
室 祐輔 MURO YUSUKE
岡山大学 2025年(令和7年)卒



基幹型研修医2年次
山村 洸介 YAMAMURA KOSUKE
金沢医科大学 2024年(令和6年)卒



基幹型研修医1年次
福山 頌悟 FUKUYAMA SHOGO
産業医科大学 2026年(令和8年)卒



基幹型研修医1年次
三原 健史 MIHARA KENJI
熊本大学 2026年(令和8年)卒



ひとりにしない 医療を、 この地域から。

病気になったとき、
遠くまで行かなければ受けられない医療がある。
そんな地域にはしたくありません。
できる治療を増やし、
支える力を強くし、
必要なときに受け止められる体制を整える。
私たちだけでは足りません。
地域の先生方とつながってこそ、
患者さんをひとりにしない医療になる。
ひとりにしない医療を、この地域から。



くまもと
県北病院
KUMAMOTO
KENHOKU
HOSPITAL

〒865-0005 熊本県玉名市玉名 550 番地

地方独立行政法人 くまもと県北病院

TEL 0968-73-5000

FAX 0968-73-5300 (地域医療連携課)

発行 総務課

撮影協力 北川 磨亜邦

病院HP

